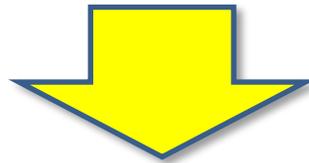


在宅勤務(リモートワーク)増加 に伴う子育て負担と子どもへ 与える影響の実態調査

NPO法人全日本育児普及協会

- ◆設立年月 2013年2月
- ◆現在のメンバー数 会員数40人
- ◆主な活動分野 子どもの健全育成
- ◆主な活動内容 父親支援、子育て支援の講座・講演会など
- ◆特徴 サラリーマンで父親
- ◆活動拠点 横浜市・神奈川県
- ◆HP「全日本育児普及協会」で検索 <http://ikujifukyu.com/>

- ◇委託事業 横浜市父親支援事業 市内50か所90講座を実施
- ◇(株)ワンスレッド パパバック開発コラボ



在宅勤務(リモートワーク)増加に伴う子育て負担と子どもへ与える影響

コロナ禍で生活様式が一変、子ども達への影響が不明

親子の居場所が制限、学校や幼稚園の遊び場閉鎖

保育園・幼稚園・こども園でも親同士のつながりが希薄に

コロナ禍で在宅勤務者が増加、家事育児時間の増加。その負担は。

★1 総務省の情報通信統計データベース【通信利用動向調査企業編(令和元年度版)】によると、南関東エリアでテレワークを導入している企業は27.1%としている。また、国土交通省【平成30年3月発表資料(平成29年度のテレワーク人口実態調査)】では全国でテレワークを利用しているのは就業者(n=)40,000サンプル数のうち15%(6,180)としている。令和2年度のデータはまだ発表されていない。

★2 野村総合研究所の2020年6月に発表した【新型コロナウイルス感染症拡大に伴う在宅勤務等に関する調査(事前調査)】では最初の緊急事態宣言中に従業員500人以上の企業に正社員として勤める男女を対象に実施したアンケート調査では5月末の在宅勤務実施率は男性で54.0%、女性で53.5%であったと発表している。

★3 同じく、NRIが2020年6月に発表した【新型コロナウイルス感染症拡大に伴う在宅勤務等に関する調査(事前調査)】で中学生以下の子を持つ男性・在宅勤務実施者へのアンケート結果には、リモートワークで57.3%が生活全般(家事や育児)にかかる時間が増えたと回答している

★4 国立成育医療研究センターによる【第4回コロナ×こどもアンケート:実施期間:2020年11月~12月(2021年2月発表)】では、保護者のメンタルヘルスをPHQ-9で計測し、0歳~5歳児までの保護者の13%に中等度のうつ傾向がみられると発表している。また、最低20%が子どもに対し好ましくない対応(感情的にどなった、たたいた等)をとったと回答している。

(2021年3月現在)

調査方法アンケート(紙/Web)

**基盤①:2021年度の横浜市子育て講座事業の委託
(横浜市全18区でのパパ講座90回)**

- 直接この調査の意図をお話することができる
- 父親の意見を多く集めることができる

基盤②:子育て施設との連携

- これまでの講座を通じた施設との連携した経験
- 各施設とも課題を知りたい

調査期間

2021年9月～2022年2月

調査対象

横浜市在住の未就学児の保護者

分析方法

東京工業大学 中谷准教授(元NTT研究所)に協力を依頼

- 在宅勤務者は全体の2割程度と想定
- 在宅勤務となった2割の保護者の家事育児時間は増加
- その2割の家庭環境は悪くなっていると仮定する

- 単純に育児時間が長く疲弊している
- 夫が自宅にいることで余計悪化している
- 仕事が思い通り進まず、悩んでいる

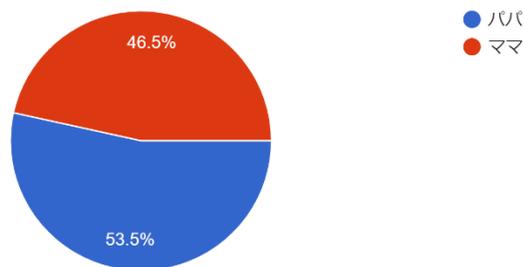
その結果子ども達への影響を計る

- 残り8割に対しても
コロナ禍の前後でどう変わったか
育児に対する不安や、好ましくない対応 など
一定の影響やその理由が見えるのではないか！？

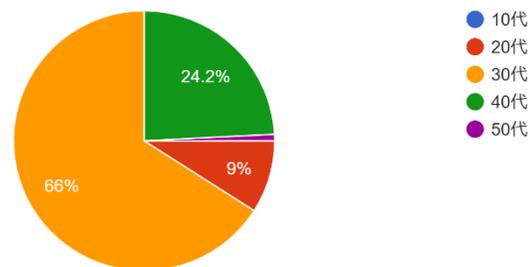
アンケート配布数 約1100(110か所) : 回答数 376件

横浜市全区の保護者から回答あり

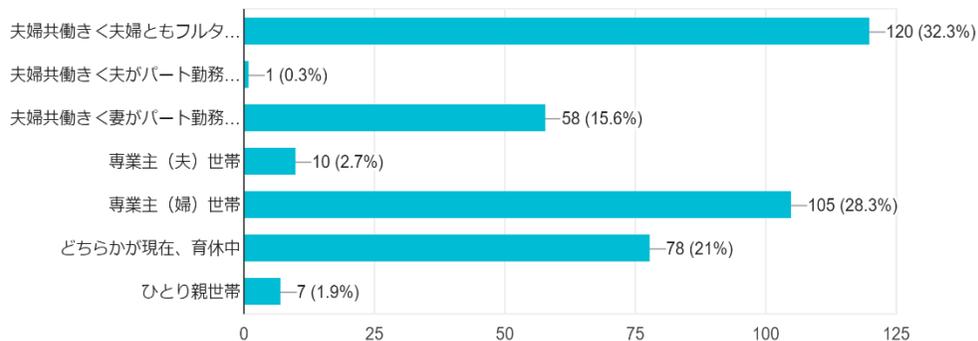
Q1、今、回答していただいている方は
376件の回答



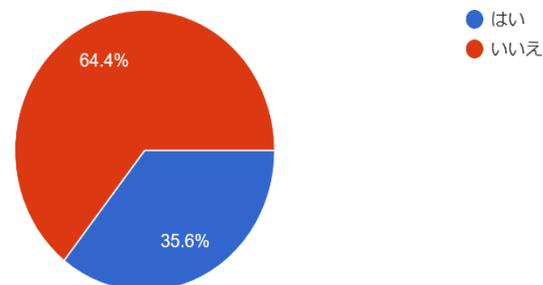
Q2、年代をおしえてください。
376件の回答



Q3、世帯の雇用状況をおしえてください
371件の回答

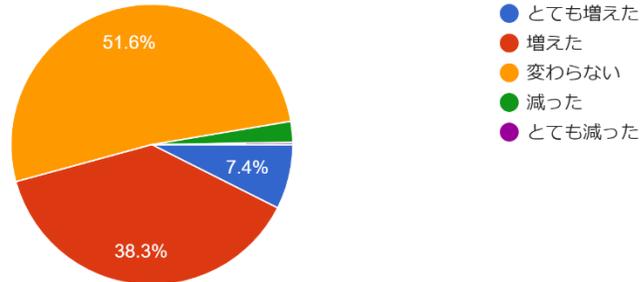


Q5、現在、ご自身は在宅勤務（テレワーク）を利用していますか？
376件の回答



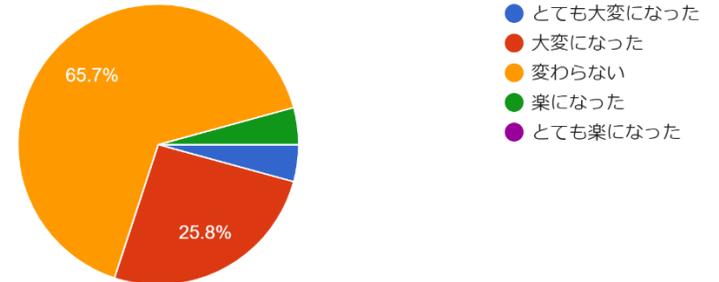
Q7、コロナ禍でそれ以前と比べ家事をやる時間に変化はありましたか？

376 件の回答



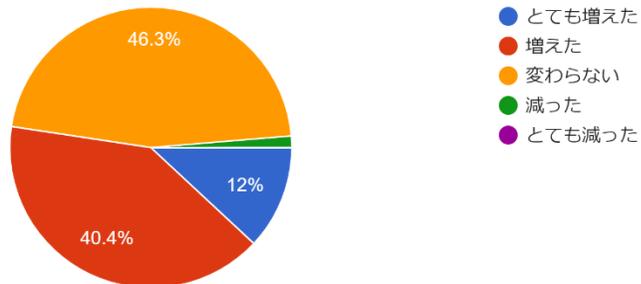
Q8、家事をやる時間が変化したことで気持ちの変化はありましたか？

376 件の回答



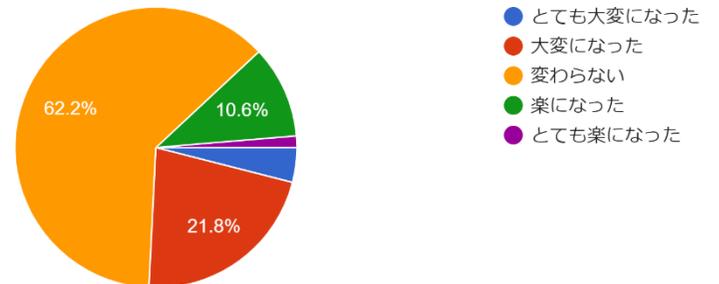
Q9、コロナ禍でそれ以前と比べ子どもと一緒にいる時間に変化はありましたか？

376 件の回答

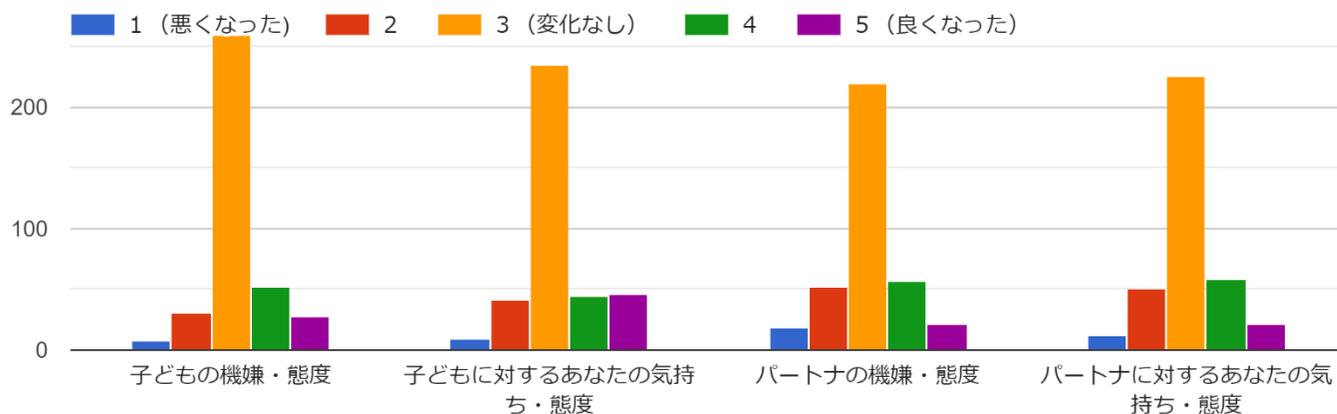


Q10、子どもと一緒にいる時間が変化したことで気持ちの変化はありましたか？

376 件の回答

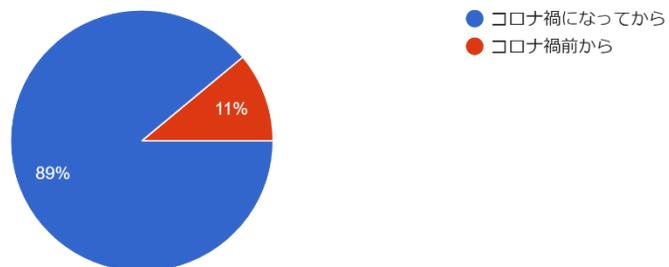


Q11、コロナ禍でご自身が感じる変化について、...ートナーの項目についてはパートナーがいる方のみ



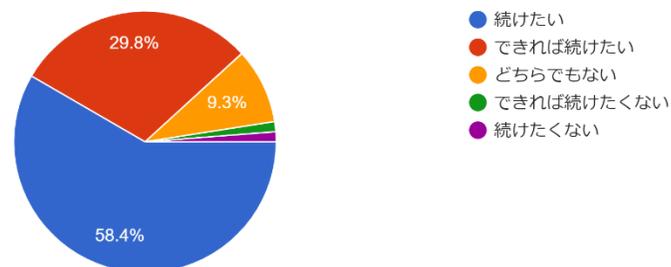
Q18、いつ頃から在宅勤務ですか？

163 件の回答

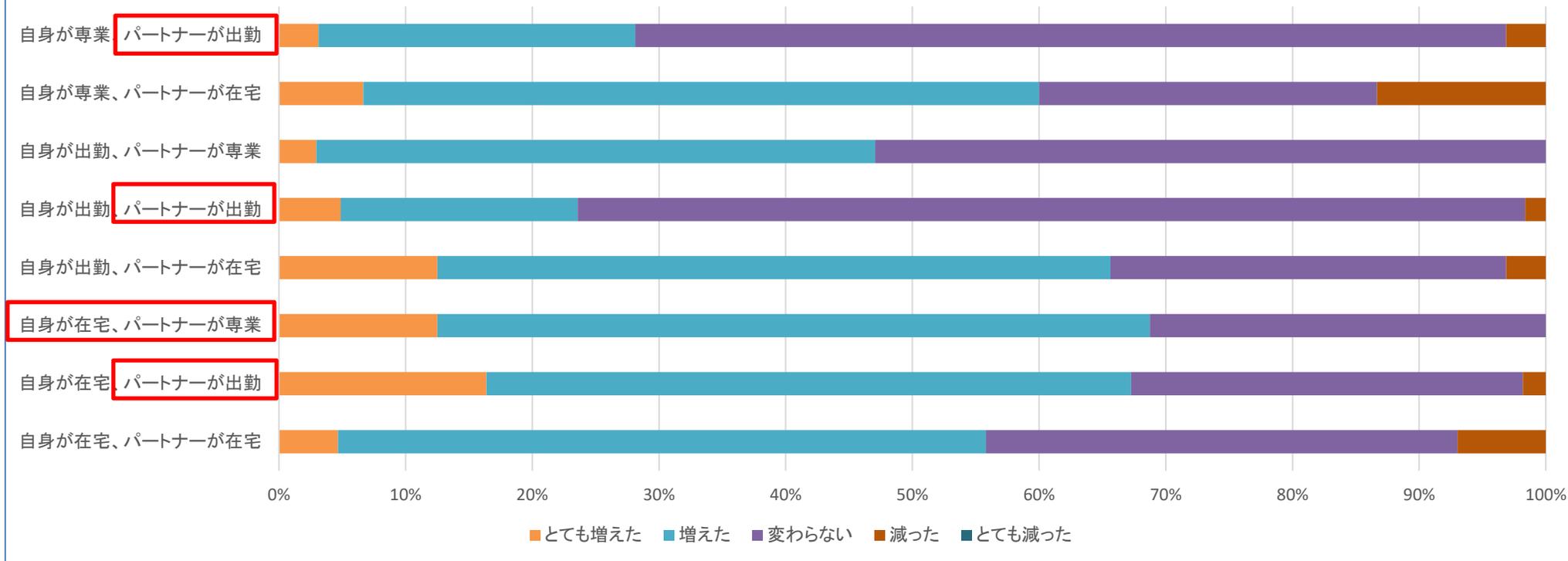


Q20、生活全般を見据えて、（ご自身またはパー...このまま続けたい（続けてほしい）と思いますか？

161 件の回答



Q7、コロナ禍でそれ以前と比べ家事をやる時間に変化はありましたか？



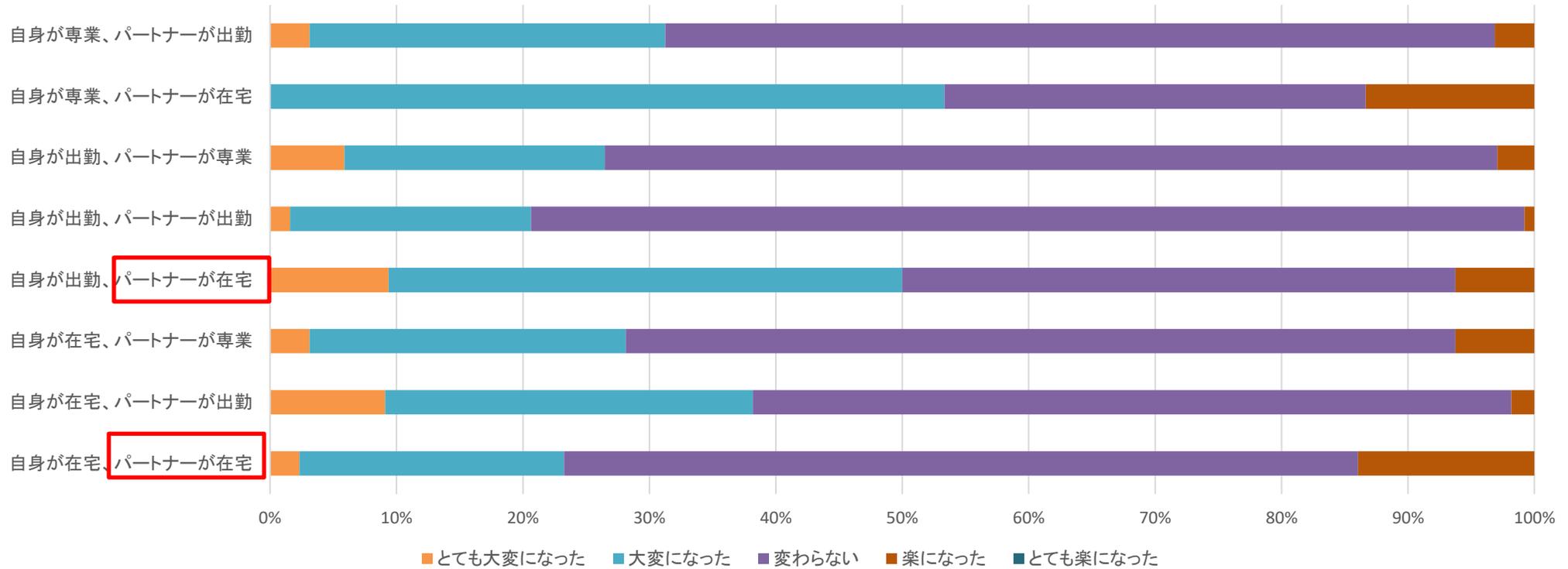
自身の働き方によらず、パートナーが出勤していると家事が増える傾向にあった。
また、在宅勤務でもパートナーが専業の場合、家事負担が増える傾向にあった。

パートナーが出勤している状況において、自分の出勤状況の主効果が有意 ($p < 0.01$)

自身が在宅勤務の状況において、パートナーが出勤か在宅かで、大変さに差がある ($p < 0.05$)

自身が出勤の状況において、パートナーが出勤か在宅かで、大変さに差がある ($p < 0.01$)

Q8、家事をやる時間が変化したことで気持ちの変化はありましたか？



自身の働き方にかかわらず、パートナーが在宅であることで、気持ちの負担が増加傾向にある
自身が在宅で、パートナーが在宅か出勤かで気持ちの負担に大きな違いがある

パートナーが在宅における単純主効果が有意
パートナーが出勤において単純主効果が有意

今後の支援につながる有効性

①分析後に、支援につながる専門家の考察
大阪教育大学教授 小崎恭弘氏

②報告書の作成(冊子)

配布予定:

自治体:神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、逗子市、平塚市

子育て支援団体:102施設(子育て支援センター、保育園、幼稚園、認定こども園)

地域:民生委員、主任児童委員、青少年指導員

他:当法人、関連法人(NPO法人ファザーリング・ジャパン等)、ホームページで公開

今後の事業の活用

父親支援を実施する中で、有効性の高い物を講演会で説明

解決すべき問題

子育て当事者は母親だけでなく、父親も妻の気持ちを支えながら、家事育児の参画を実施しながら、児童虐待を未然に防ぐ活動に貢献していく

ご清聴ありがとうございました。